HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	逃婚歌集錦2 : ミャオ族
Author(s)	渋谷, 瑞江
Citation	北海道大學文學部紀要, 46(2), 1-39
Issue Date	1998-01-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33702
Type	departmental bulletin paper
File Information	46(2)_PL1-39.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 46-2 (1997)

逃婚歌集錦2 ── ミャオ族

渋 谷 瑞 江

ミャオ（苗）族は，西南中国では有力な少数民族である。1990年時点での人口はおよそ740万人。歴史的にも早くから記録に現れ，とりわけ漢民族との抗争で目立つ結果になってしまった。しかし，かれらは歌好きな民族としても知られる。日本の歌垣にも似た「跳月」の習俗は革命以前からよく知られていた。

ミャオ族は，大きく二つのグループに分けられる。一つは東部集団というべき人々で，湖北西南端，湖南西部，貴州東南部，広西北部にわたる山地に住み，黔東方言を話す。以前は俗に「黒苗」と呼ばれていた。もう一つは西部集団で，貴州西部，四川西南部，雲南東南部，さらにベトナム・ラオスへと移動した人々で，川黔滇方言を話す。こちらは「花苗」と呼ばれた人々が多い。その他にも，明代に海南島先住民のリー（黎）族を押さえるために派遣されたミャオ族の子孫とみられる人々が，海南島に住んでいる☆1。

中華人民共和国成立後，少数民族地区の調査が行われたが，苗族は漢民族との関わりの歴史が長いためか，調査の初期の段階でかなり詳しい記録がなされている。それらの成果は，1950年代からまとまったものとして刊行された☆2。

逃婚歌も14の歌を集めることができた☆3。前回のリス族とは異なり，長短さまざま，発表の時期も，早い時期のものと1980年代のものが見られる☆4。リス族のものに較べると「整理」のレベルも様々のようである。それだけに採集調査時の臨場感が伝わって来るような気がする。殊に『民間文学資料集』に収録されたものについては，その感が強い。

ここで訳出した歌は13篇であるが，これは「k．逃婚歌」（『民間文学』

1960年第10期）と『三月三』1984年第6期に発表された「逃婚調」が内容的にかなり似通っているので，ここでは取り上げなかったためである。採集地域が明示されているものは，大部分が東部集団に属するものとなっている。

注

☆1：村松一弥『中国の少数民族』(1973，毎日新聞社)，『苗族簡史』(1985，貴州民族出版社)，『苗族』(民族知識叢書，1993，民族出版社）など参照。

☆2：1958年，中国民間文学工作者第二次代表大会が北京で開かれ「全面捜集，重点整理，大力推広，加強研究」の方針が制定され，本格的な調査研究が始まった。翌59年には中国民間文芸協会貴州分会が成立した。ここで整理・翻訳された作品が57年（一説には54年）から『民間文学資料』として86年に至るまで刊行されている。ここには苗族をはじめ貴州省に住む各少数民族の文芸資料がおさめられている。

☆3：渋谷瑞江「逃婚歌集錦1――リス族「逃婚調」」(『北海道大学文学部紀要』45-3，1997.3，pp.166-170)，駆け落ちのうたリスト参照。

☆4：間があいているのは，文化大革命によるものと考えられる。この時期，少数民族の文芸関係の主要な発表の場であった『民間文学』は休刊中だった（1966～78)。

（★は原注，☆は訳注）

a　逃婚歌

『民間文学資料第 5 集（苗族叙事詩）』
苗族文学史編写組編　1959　pp.136-138
凱里県丹塞地区　李阿徳（苗族）1959 年 1 月　歌唱
潘光華　1959 年 7 月　捜集整理

哪時走？	いつ行くの？
雷時卯時走。	雷の時卯の時に行く。
這時夜深人静，	夜更けて人々が寝静まる頃，
爸媽不知道，	父さん母さんは分からない，
寨上的人也不知道。	村の人たちにも分からない。
朝哪里走？	どこへ行くの？
朝没有人烟的地方走。	誰も住んでいない所を目指すのさ。
走到了荒山僻野，	人里離れた荒野へ行って，
餓了就采摘山上的野桃，	お腹が空いたらヤマモモをもいで食べよう，
用泉水洗干浄，	泉の水で洗って食べよう，
多則哥妹各一個，	沢山とれたら一つずつ，
少則哥妹咬一口。	とれなかったら一口ずつ。
這時我俩的心不跳了，	この時私たちはおびえたりはしない，
心里甜蜜蜜的呃，	心は蜜のように甘い。
我俩走到下場地方，	二人が街へ下りて，
肚子餓了呃，	そこでお腹が空いたなら，
妹妹取出了七両重的耳環，	いもうとが七両の重さの耳飾りを外して，
拿去摊上買点蜜桃，	桃の実を買いましょう，
多則各一個，	沢山買えたら一つずつ，
少則各一口。	少しだったら一口ずつ。

吃了我俩再向前走,	食べたらまた先へ進もう,
免得被人追上。	追手から逃れるために。
我俩朝哪辺走？	私たち二人はどこへ向かって行くの？
朝丫頸上走。	峠に沿って登って行こう。
可是対面有人在捕雀,	でも雀捕りの人に出くわしたら,
我俩改朝水路走。	私たちは渓流に沿って歩いて行こう。
水路有人在捕魚,	でも魚釣りをする人がいて,
守住七道河,	七つの河を守っていたら,
我俩坼回来朝楽然* 走。	私たちは取って返して楽然へ向かおう。
来到了渡口,	渡し場に着いたら,
情郎一手牽情妹,	男が愛しいいもうとの手をひいて,
一手掌着船,	一緒に船に乗る,
順水劃下去,	流れに乗って漕ぎ下り,
越過了暗礁,	暗礁を乗り越えて,
走到南辺的地方。	南の方へ行こう。
有個侗族好心腸,	そこの侗族の人々は心優しくて,
把我俩収留在他家。	私たちを家に泊めてくれる。
可是深怕後面有人追,	でも追手が来るかも知れないから,
我俩還是往別処跑。	二人してもっと別の所へ行こう。
不覚走到野鶏窩,	雉の巣に行き当たったら,
〝好吧，我俩就住在野鶏窩〞	「よし，二人してこの雉の巣に住もう。」
几天以後野鶏転回来,	何日かして雉が帰って来たら,
野鶏発痺気,	雉はかんしゃくを起こすだろう,
説是有人占了它的窩。	誰かに巣を横取りされたからだ。
妹妹胆量小,	いもうとは気が小さいから,
深怕野鶏出去告訴人。	雉が人に告げてしまうのが心配だ。
哥哥胆量大,	にいさんは度胸があるから,

抽出腰刀斬野鶏，　刀を抜いて雉に斬りつける，
晩上拿它来充飢。　晩にはそれで飢えを満たそう。
忽然対門山出現了火把，　突然向かいの山に松明が現れる，
長刀短剣閃寒光。　刀や短剣が冷たい光を放つ。
這不是安静的地方，　ここは安住の地ではない，
我俩又朝前跑，　二人でもっと先へ進もう，
順着山路往下梭，　山道を下って来ると，
不覚梭到了龍窩。　龍の巣に行き当たった。
趁着龍王龍子不在的時候，　龍王と龍子のいない間に，
我俩避難在龍窩。　二人でこの巣に身を隠そう。
几天以後龍王回家転，　何日かして龍王が帰って来たら，
看見有人就発気。　人がいるのを見て怒るだろう。

妹妹胆量小抖嗦嗦，　いもうとは気が小さくて震えるだろう，
哥哥胆量大抽出腰刀，　にいさんは大胆にも腰の刀を抜いて，
殺死了老龍王，　龍王を殺すから，
把它当早餐。　それを朝飯にしよう。
這不是人的住所，　ここは人の住む所ではない，
也不是人走的路，　ひとが歩く道でもない，
我俩又往山上跑。　二人して山を登って行こう。

不覚到了野猪窩，　猪の棲処に行き当たったら，
趁它出外去覓食，　外へ餌をあさりに行っている隙に，
我俩就住在它的窩。　二人してその棲処に住もう。
几天以後野猪回家転，　何日かして猪が戻って来て，
張開獠牙要傷人。　牙を剝きだし襲いかかろうとする。
妹妹心驚胆戦，　いもうとは肝を潰す，
哥哥抽出腰刀，　にいさんは腰の刀を抜いて，
斬断野猪的頸，　猪の頭を斬り落とし，

用肉来充飢。	その肉で飢えを満たそう。
吃完了野猪肉，	猪の肉を食べ終えたら，
忽然対門山上現人影，	突然向かいの山に人影が現れて，
長刀短剣閃寒光。	刀や短刀が冷たい光を放つ。
這不是人住的地方，	ここは人の住む所ではない，
也不是人走的路，	そして人の歩く道でもない，
収拾衣物又往別処跑。	荷物をまとめてよそへ行こう。
不覚到一個吃毒菌的人家，	毒キノコを食べた一家に出会った，
我倆熬薬煎湯忙急救，	私たち二人は薬を煎じて急場を救い，
死人又重生。	死人は生き返った。
哥哥同男人去耕田，	にいさんは男衆と一緒に田畑を耕し，
妹妹同女人去種地。	いもうとは女衆と一緒に種を蒔いた。
正想過下平静的生活，	ようやく穏やかな日々が過ごせるかと思ったら，
忽然外面有狗声，	突然外で犬の鳴き声がした，
定是家里的人又来追。	郷里からの追手が来たに違いない。
哥妹急得朝後門溜，	二人はすぐさま裏口から逃げ出した，
翻過重重的山嶺，	幾つもの山を越え，
渉過道道的河流。	幾つもの河を渡った。
披荊斬棘到下方，	幾多の困難を乗り越えて山を下り，
碰上一股清清的泉水。	きれいな泉のほとりにやって来た。
泉辺開着很多花，	泉のほとりには花々が咲き乱れ，
我倆吃着花児，	私たち二人はその花を食べ，
又在泉辺洗個臉，	泉のほとりで顔を洗い，
軽軽地哼個苦情歌。	苦情歌を口ずさんだ。
還是継続朝前走，	もっと先へと進む，
免得後面有人追，	追手の追及をかわすために，
不覚来到一個荒坡，	荒れた斜面に行き当たった，

荒坡上面有几塊荒田。
哥哥用手去翻田，
手指翻遍了稀泥。
妹妹去翻地，
汗水滴滴了深窩。
雷公打起鼓，
雨水嘩嘩下。
長出了庄稼，
八月是個好収成。
哥哥上山去打猟，
妹妹在家桃花綉。
前面綉一対情人。
美象映山紅；
後面綉一幇打手；
再綉自己的豊収；
還綉山羊野味満桌香，
一個娃娃白白胖胖，
爹娘在旁逗他玩。
哥哥狩猟回家転，
我睨俩吃着香香的飯。
我睨俩雖是水上的楼房，
但水沖不倒，
火也焼不着。
★：地名。

そこには荒れ果てた田んぼがあった。
にいさんは手でそれを耕し，
指で泥をかき混ぜた。
いもうとは畑を耕し，
滴る汗が穴を穿った。
雷が鳴りだし，
雨がザーザー降ってきた。
作物は育ち，
八月には大豊作を見た。
にいさんは山で狩りをし，
いもうとは家で刺繍をする。
表には一対の恋人を，
山の紅葉を照り映えさせて；
裏には狩りをする人を；
そして自分たちの豊作を刺繍する；
そこには山の幸で一杯の食卓と，
まるまると太った赤ん坊が，
父さん母さんの傍で遊んでいるところを。
にいさんが狩りから帰って来たら，
二人でおいしい御飯を食べよう。
私たち二人，
水は尽きることがない，
火は消えることがない。

b　逃婚歌

『民間文学資料第８集（黔東南，湘西苗族情歌）』
苗族文学史編写組編　1959　pp.63-68

(一)

楊昌松，唐振邦捜集　呉錦整理　1959.7.22

紅色榴皮染成布，
紅い榴で布を染める，

蘭色花綫綉成花，
蘭の花の色をした糸で花を刺す，

只要妹心合哥意，
ただいもうとの心とにいさんの心がひとつであればいい，

只要哥意合妹心，
ただにいさんの心といもうとの心がひとつであればいい，

姑娘啊！
娘さんよ！

我俩走吧。
二人で出発しよう。

妹従大門出，
いもうとが表の門から出ると，

黄狗叫一声，
犬が吠えて，

門響父母知；
父さん母さんに知られてしまう；

妹従後園出，
いもうとが裏庭から出ると，

菜葉断也知。
菜っ葉の折れる音で知られてしまう。

我俩爬坡走，
二人して坂道を登って行こう，

松葉蓋頭頂，
松葉が頭上を覆っている，

等到明早晨，
明日の朝になれば，

媽帯狗来尋，
母さんが犬を連れて捜しにくる，

哥拿錬来捆，
にいさんが（犬を）縛り上げても，

仍然找到妹，
いもうとは見つかってしまう，

仍然找到哥。
にいさんは見つかってしまう，

哥哥心裏霊，
にいさんに考えが閃いて，

哥哥告知妹，
いもうとにこう告げる，

乖乖回家去，　おとなしく家へ帰ろう，
到家找匹布，　家に着いたら布を捜して，
従欄干吊下，　それをテラスから吊し，
我俩順河走，　二人して河に沿って行こう，

渾水塡脚印，　濁り水が足跡を消してくれる，
沙泥蓋脚底。　泥砂が足跡を埋めてくれる。
一手拉着妹，　片方の手でいもうとの手を握り，
一手劃着舟。　もう一方の手で船を漕ぐ。
順着河水瓢瓢而下，　流れに乗って下って行こう，
瓢到施洞口，　流されて施洞口にやって来た，
剣河好地方，　剣河は良いところ，
修的全是楼房，　家並はみな立派，
屋裏住的全是幸福人，　家に住む人々はみな幸せ，
屋前屋後是花園。　家の前も後ろもお花畑。
到了明晨，　朝になったら，
媽喊妹九声，　母さんがいもうとを九度呼ぶ，
十句没聴応。　十回呼んでも答えはない。
媽拿棍来打，　母さんは棍棒を取り上げて，
走到妹床前；　いもうとの枕許に行く；
拍拍床上打，　寝床の上をたたいてみたけれど，
床上空無人。　寝床はもぬけのから。
媽媽怒衝天，　母さんは怒って，
跑出門来喊：　門から走り出て怒鳴る：
我的姑娘啊！　うちの娘はどこだ！
你是否還在村上？　お前は村にはいないのか？
若是在村上，　村の中にいるのなら，
就応你娘一声，　母さんに返事しなさい，
你娘好放心。　そうすれば母さんは安心できる。

村上的人心腸好，　村の人達は心根が善い，
人們応老娘：　婆さんに答えてこう言った：
誰能蔵你女，　誰があんたの娘を隠すかね，
你去問你媳　あんたの嫁さんにお聞きなさい，
舂米双脚踏，　米を搗くのも一緒，
簸米二人揺，　米を簸うのも一緒だったじゃないか，
走那方她知道。　どこへ行ったか知ってるだろうよ。
老娘心着急，　婆さんは心せかされて，
立馬問児媳，　すぐさま嫁にこう聞いた，
児媳啊！児媳：　息子の嫁や！嫁：
姑娘走那一方你可知道？　娘がどこに行ったか知ってるかい？
児媳心善良，　嫁さんは心優しいので，
照実回婆話：　姑に答えてこう言った：
我管得鍋竈，　私は竈を仕切ってはいるけれど，
我管得家畜，　私は家畜の世話はしているけれど，
管不得你女，　あなたの娘のことは分かりません，
走那方我不知道；　どこへ行ったのか私は知りません；
你去問那些少女們吧，　その辺の娘達に聞いてみて下さい，
她們跟她玩，　彼女たちは一緒に遊んでいました，
她們同她住，　彼女たちは一緒に住んでいました，
走哪方她們知道。　どこへ行ったかは彼女たちが知っていましょう。
老娘立馬去問少女們：　婆さんはすぐさま娘たちにこう聞いた：
我姑娘走哪地方她們可知道？　うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
少女們心善良，　娘たちは心優しいので，
立馬回娘話：　すぐに答えてこう言った：
我們還年幼啊，　私たちはまだとても幼くて，
好象剛従土裏長出来的菜苗一様，　まるでたった今芽を出したばかりの菜っ葉と一緒，
初叫的公鶏不能響遍全村，　鳴き始めたばかりの雄鶏の声が村中には響かないように，
我們還不会游方，　私たちはまだ游方☆1へ行くことはできません，

走哪一方我們不知道；
你去問大姐姐們吧，
她們跟她玩，
走哪一方她們知道。
老娘立馬去問大姑娘：
我姑娘走哪方你們可知道？
大姑娘們心善良，
她們親切地回娘話：
菜老了会抽苔，
結過婚的人啊！
已過了青壮年，
老公鶏叫啊！
已不能響遍全村，
我們已不能再游方，
走哪方我們不知道；
你去問那十七，八歳的姑娘們吧，
她們同她玩，
她們同她生，
走哪方她們知道。
老娘立馬去問姑娘們：
姑娘們啊，姑娘們，
我閨女走哪方你們可知道？
姑娘們心直爽，
告訴老娘実話：
昨天和前天啊，
有双白鷺飛過河，
有対青年来游方，
青年生得很漂亮，
鞋袴穿得很訊究，

どこへ行ったのか私たちは知りません；
年嵩のねえさんたちに聞いてみて下さい，
彼女たちは一緒に遊んでいましたから，
どこへ行ったか知っていましょう。
婆さんはすぐさま年嵩の娘たちにこう聞いた：
うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
年嵩の娘たちは心優しいので，
やさしく答えてこう言った：
菜っ葉も育ち過ぎれば薹が立ちます，
結婚してしまった者は！
もう若くはありません，
年取った雄鶏の声が！
もう村中に響かないのと一緒です，
私達はもう游方には行けません，
どこへ行ったのか私たちは知りません；
十七，八の娘たちにお聞きなさい，
彼女たちは一緒に遊んでいました，
彼女たちは一緒に住んでいました，
どこへ行ったかは彼女たちが知っていましょう。
婆さんはすぐさま娘たちにこう聞いた：
娘たちよ，娘たち，
うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
娘たちはとても素直だったので，
婆さんに本当のことを話した：
きのうとおととい，
ひとつがいの白鷺が河を渡って，
一組の若者が游方にやって来た，
若者はとても素敵だった，
靴もズボンもとても良く似合っていた，

衣服長到脚後跟，
可能已走了吧。
老娘大発怒，
杵着長拐棍，
到処来尋找，
到了妹住的地方，
碰着妹挑水，
媽媽告訴妹：
舅舅要外甥銭啊！
鶏要一百籠，
銀要一千両。
妹聴大吃驚，
立馬告訴哥：
哥哥啊！
早暁得這様，
我不応該跟你来，
我来害了你啊！
為我而使你破産。
哥哥心堅決，
哥哥安慰妹：
我家兄弟多，
請貧的幇九分，
請富的幇一銭五，
九秤秤不動，
秤桿指到天，
拿去給舅舅，
舅舅得了銀銭
買得田和地。
哥哥得妹妹，

着物の裾をなびかせて，
きっともう行ってしまったわ。
婆さんはとても怒って，
長い棍棒を杖にして，
あちらこちらと捜して歩いた，
いもうとの住む所に着くと，
いもうとに水をぶっかけて，
母さんはいもうとにこう言った：
おじさんが外甥銭☆2をよこせと言ってきた！
鶏が百籠
銀を一千両。
いもうとはそれを聞いてたいそう驚いて，
すぐににいさんに告げた：
にいさん！
こんな事になると知っていたら，
私はあなたについて来るんじゃなかった，
私はあなたに悪いことをしている！
私のせいで破産させてしまう。
にいさんの決意は堅かった，
いもうとを宥めてこう言った：
私には兄弟が沢山いる，
貧しいのには九分，
豊かな人には一銭五分出してもらおう，
九つの秤では量り切れない，
秤の針は天を指す，
おじさんに持っていってくれ，
おじさんはお金を手にしたら，
田んぼや畑を買うだろう。
にいさんはいもうとを手に入れる，

哥哥安了心。	にいさんは安心を手に入れる。
心中無意乱,	心乱されることなく,
一起到田辺,	起きたら田畑に出かけて,
做哪一様活都有勁。	一心に野良仕事。
培植我俩的家園,	二人の庭に植えたもので,
最幸福的就是我和你,	一番幸せなのは私とあなた,
再也没有什麼憂愁了。	そこにはもう何の憂いも在りはしない。

☆1：「遊びの庭」の意味。祭りの日に若い男女が村外れの林や橋のたもとなどの特定の場所に集まり，向かい合って歌を歌い交わす。互いに気に入った相手がみつかると腕輪などを取り交わして求愛する行事。

☆2：父方交叉イトコ婚（女性は母の兄弟の息子と結婚する）の規制があるとき，女性がイトコ以外の男性と結婚する場合に，自分が嫁いで行けないことの代償として母方のオジに支払う金品の事。

c （二）

唐春芳　捜集

有心要成双,	結ばれたいという心があるのなら,
深夜来游方,	夜更けて游方にやってきて,
等別人都散了,	他の人たちがいなくなるのを待って,
我俩就成双。	私たち二人だけになろう。
阿妹心急切,	いもうとは心急かせて,
阿妹説：	いもうとが言う：
〝哥哥：你在這里等,	「にいさん：あなたはここで待っていて,
我回家去拿衣服,	私は家に戻って着物を持ってくる,
拿来衣服我俩就走。〞	着物を持ってきたら二人して出発しましょう。」
一同走到阿哥的家,	一緒ににいさんの家へいき,
阿哥喊媽媽：	にいさんは母さんにこう告げる：
〝快起来媽媽,	「早く起きてくれ母さん,

快起来開門囉！	起きて門を開けてくれ！
開門給哥哥，	にいさんのために門を開けてくれ，
開門給妹妹。〃	いもうとのために門を開けてくれ。」
媽媽起来了，	母さんが起きてきて，
青杠樹葉焼火来照亮，	青杠の葉を燃やして明るくしてくれた，
媽媽来看妹，	母さんはいもうとを見る，
阿妹臉児白生生，	いもうとの顔は真っ白，
阿哥臉児白生生，	にいさんの顔も真っ白。
媽媽想得周到，	母さんは考えをめぐらせて，
媽媽問阿哥：	にいさんにこう聞いた：
〝你引来的這個姑娘，	「お前が連れてきたこの娘さんは，
是人家的媳婦？	どっかの嫁さんかい？
還是没有丈夫的姑娘？	それともまだ旦那はいない娘かい？
若是人家的媳婦，	もしどっかの嫁さんなら，
那要賠人家很多銭啊！	沢山の金を払わなきゃならないよ！
引她転回去吧，	返しておいで，
讓她回她原来的丈夫家去；	その娘さんをもとの旦那の所に；
若是没有丈夫的姑娘，	旦那のいない娘なら，
就留下她吧。	ここにいてもらいなさい。
現在是深夜了，	今はまだ夜中，
等到明天早晨，	夜が明けたら，
叫一些人去約親友，	人をやって親戚の契りを結ぼう，
叫一些人来殺猪，	人を呼んで豚を屠ろう，
準備九罐好酒。〃	九壺の上等の酒を用意しよう。」
老人們喜歓好酒，	年寄り達は上等の酒に喜び，
小孩們喜歓糯米飯，	子供たちは糯米御飯に喜び，
小伙子們喜歓看姑娘，	若者たちは娘を見るのを喜び，
我俩喜歓成双。	私たち二人は一緒になれるのが嬉しい。
妹妹喜歓哥哥，	いもうとはにいさんが好き，

哥哥喜歓妹妹,	にいさんはいもうとが好き,
桃花正開在桃樹上,	桃の花はいままさに開き,
我倆美満地成双。	私たちは一緒になる喜びに満たされる。

c （三）

唐春芳　捜集

阿妹想成双,	いもうとは一緒になりたいと想う,
阿哥想成双,	にいさんは一緒になりたいと想う,
我倆逃到河辺等,	私達は河辺に逃れて待とう,
等着不劃下来,	船がやって来るのを待って
我倆乗上木船，順水面下。	その船に乗って，流れを下ろう。
看遍山来看遍水,	通り過ぎる山や河を見る,
哪裏河水清,	どの河の水が澄んでいるか,
哪裏地方好,	どのあたりが良さそうか,
就在哪裏安下家。	良い場所を見つけたらそこに住もう。
不管老人願不願認親,	年寄りが縁組を許そうが許すまいが,
我倆不去理它。	二人には関係ない。
布染好了就要縫衣裳,	布を染め上げたら着物を縫わなくてはならない,
合心合意了就要成双。	心を合わせたのなら二人は結ばれなくてはならない。

e （四）

雷山公社　李超芳唱
于賀勇捜集　呉錦整理

女：月亮出来月亮黄,	月が出ました黄色い月が,
年軽的人們来到寨門游方：	若者たちは村の入り口で游方をする：
吹木葉響幽幽,	木の葉笛は嘯々と,
拍手響〝打打〞。	手拍子はパンパンと。

阿哥！	にいさん！
不要吹了，	吹かないで，
不要拍了	叩かないで，
吹多拍多媽罵，	吹いたり叩いたりが過ぎると母さんに叱られる，
罵得我多傷心啊。	叱られると私の心はとても痛む。
男：阿妹喲！	いもうとよ！
不要怕，	怖がることなんかないさ，
老人做成老規矩，	年寄りには年寄りのきまり，
青年才来玩嘛。	若い者は楽しむものさ。
女：阿哥在寨辺招手，	にいさんは村外れで手招きする，
阿哥在寨辺吹木葉，	にいさんは村外れで木の葉笛を吹く，
青帕子不停地揺，	青いハンカチは揺れ続け，
木葉不停地吹，	木の葉笛は鳴り止まない。
帕子揺得我心跳，	ハンカチが揺れると私の心はびくびく，
木葉吹得我心慌。	木の葉笛は私の心をかき乱す。
阿哥不要揺了，	にいさん揺らさないで，
不要吹了，	吹かないで，
我俩很快地走吧！	私たち二人は大急ぎで出発しましょう！
到了哥哥的寨子，	にいさんの村に着いたら，
我俩再不操心了。	私たちはもう心急くことはありません。
男：阿妹喲！	いもうとよ！
你是有心還心無心？	あなたは気があるのかそれとも無いのか？
有心就請直説吧，	気があるのなら素直に言っておくれ，
有心我俩就業快走吧！	気があるのなら私たちはすぐに出発しよう！
分散就不好了，	離れ離れは良くない，
分散就不易相見了。	離れ離れになったらめぐり逢うのは難しい。

女：我的心実在想你喲！　　私は心からあなたを想っています！
　想在心裏深処，　　心の深いところで想っています，
　不知怎様表達出来，　　どうやって打ち明ければいいのか分からないのです，
　不知怎様説給你聴。　　どういうふうに話せばいいのか分からないのです。

男：阿妹喲！　　いもうとよ！
　只要你是這様的心願，　　心で想うだけで充分だ，
　那就跟我走吧，　　さあ私についておいで，
　我俩成双了，　　私たち二人は一緒になろう，
　再也不操心了。　　もう二度と心焦ることはない。

f （五）

唐春芳　捜集

這几天的月亮真好，　　ここ何日かの月は素晴らしい，
妹妹想収拾衣裙跟哥哥走，　　いもうとは着物の裾をまくってにいさんの後を追いたい，
哪怕路上遇強盗，　　道中追剝ぎに遭うのが怖いかい，
妹妹不怕。　　いもうとは怖がりません。

g （六）

炉山凱棠　楊苦保唱
橋波捜集　呉錦整理

哥是父母生，　　兄さんは父さん母さんから生まれた，
妹是父母養，　　妹は父さん母さんに養われた，
樹有千枝椏，　　木々は千の枝を広げ，
父親有両条心。　　父さんは二つの心を持つ。
好的大田大地給哥哥，　　広く肥えた田畑は兄さんに，
大房大屋給哥哥，　　大きな家は兄さんに，

壊的給妹妹，　妹には粗末な物を，
只拿只項圈，　ただ首飾りと，
一対水桶，　水汲み桶が一組だけ，
就把妹妹出嫁了。　そして妹は嫁に出される。
父親心不好，　父さんは意地悪，
従火坑辺送妹妹，　囲炉裏のそばで娘を見送り，
送到大門口就転回去。　門まで送ってすぐ引き返す。
好丑是娘養，　母さんに養われたなんて厭わしい，
好丑是従娘的懐裏生，　母さんから生まれたなんて厭わしい，
娘送我到寨脚，　母さんは村の外れまで見送る，
我看見伙伴們玩，　私は仲間たちが遊んでいるのを見た，
在寨旁玩，　村の外れで遊んでいた，
在路両旁吹木葉，　道の両側で木の葉笛を吹いていた，
玩得多麼自由啊！　なんてのびのびと遊んでいるのだろう！
我後悔了，　私は後悔した，
我不想走了，　私は行きたくない，
決心不去了。　行かないことに決めた。
媽媽揚牛鞭抽妹，　母さんは牛の鞭で妹をぶつ，
打妹几鞭子，　妹めがけて鞭を振り下ろす，
几巴掌打在臉上，　平手で顔を打つ，
妹妹我痛苦極了，　私は痛くてたまらない，
心如刀割一様，　心はナイフで割かれて，
心如米糠飛一様。　籾殻のように粉々になる。
不管怎様，　どうなろうと構わない，
死我也不去，　死んでも私は行かない，
活我也不去。　生きていたって私は行かない。
決心跟着阿哥走，　愛しいにいさんについていくことに決めた，
早走早好，　早ければ早いほうがいい，
不然那時分散了，　でないと離れ離れになってしまう，

再見面就難了。　　再び逢うことが難しくなってしまう。

h　逃婚歌

炉山凱棠　楊構保（苗族）唱
1959.1.18　橋波記録翻訳，1959.2.　桂船人整理
『民間文学資料第十七集（苗族婚姻歌）』　苗族文学史編写組編　1959
pp.146-147

従前的時候，　　ずっと前のこと，
很早的時候，　　昔々のこと，
媽媽生妹妹，　　母さんが妹を生んだ，
爸爸養妹妹。　　父さんが妹を育てた。
樹子有両個杈，　　木には二股の枝，
爸爸有両様心，　　父さんには二つの心，
好東西給哥哥，　　良い物は兄さんに，
哥哥得房子，　　兄さんは家をもらった，
得長田大地；　　兄さんは広い田畑をもらった；
壊東西給妹妹，　　粗末な物は妹に，
給妹妹一只項圏，　　妹には首飾りがただ一つ，
一対挑水桶。　　水汲み桶が一組だけ。

嫁妹妹出門，　　妹が嫁いでいくとき，
爸爸心不好，　　父さんは意地悪だった，
在火坑辺送，　　囲炉裏のそばで見送り，
送到大門口，　　門まで送ってくると，
就転回去了。　　すぐさま帰ってしまった。
好丑是娘養的，　　母さんに養われたなんて厭わしい，
是従好懐裏生的，　　母さんから生まれたなんて厭わしい，
媽送到寨脚。　　母さんは村の外れまで見送ってきた。

妹妹走到寨脚，
看見小伙們在玩，
在寨子旁辺唱歌，
在路旁辺吹木葉，
手上拉胡琴：

妹が村外れまで来ると，
仲間達が遊んでいるのが見えた，
村の外れで唱っている，
道の傍らで木の葉笛を吹いている，
その手では胡琴を奏でている：

〝妹妹離開了媽媽〞，
妹妹座不了家郷，
死了心才出客，
這一去就去久了，
好像月亮落坡，
太陽也照不到，
姑娘就座在陰暗地方。〞

「妹が母さんから離れたら，
もう故郷には留っていられない，
諦めて出ていくしかない，
一度出てしまえば行ったきり，
まるでお月様が沈んでしまったよう，
お陽様も照らしてくれない，
娘は暗い所に閉じ込められる。」

〝想通了没有？姑娘！
想通了就来玩，
就来唱唱歌，
玩一会也行。
不来玩我們就分散了；
等到来年時候，
還有什麼指望呢，
背小孩在肩上，
想来玩也不行了。〞

「分かったかい？娘さん！
分かったら一緒に遊ぼう，
一緒に歌を歌おう，
ちょっとの間でもいいから。
そうでないと俺たちは散り散りになってしまう；
来年まで待っても，
一体どんな楽しみがあるんだい，
背中に赤ん坊を背負ってでは，
遊びたくても遊べやしない。」

姑娘後悔了，
媽媽叫往前走，
媽媽揚牛鞭，
打妹妹几下，
打妹妹几巴掌。

娘は後悔した，
母さんはさっさとお行きと急き立てる，
母さんは牛の鞭を振り上げて，
妹めがけてふり下ろす，
妹を平手でぶつ。

妹妹心苦極啦！　妹はとてもつらい！
妹妹的心像米糠，　妹の心は米糠のよう，
像米糠飛走了。　米糠のように飛び散った。
馬找着草吃，　馬が草を探している隙に，
妹妹悄悄跑走了。　妹はこっそりと逃げ出した。

i　逃婚歌

『民間文学資料第 12 集（苗族古歌与情歌合集）』
苗族文学史編写組編　1959　pp.80-81
威寧龍街公社大寨　楊永林唱　朱顕輝捜集　1958 年
韓紹綱訳　1959 年 8 月

男：晴朗朗的天呀，　晴れわたった空よ，
晴朗朗的天喲！　晴れわたった空！
晴朗朗的天真真好，　晴れわたった空は素晴らしい，
好我俩情哥情妹上路喲！　私たちふたりには絶好の旅立ち日和りだ！

我俩情哥情妹向前走，　私たちふたりは前へ進む，
我俩情哥情妹向前行。　私たちふたりは前へ向かう。
走呀走，行呀行，　さあ行こう，さあ進もう，
走到羊街対面的傍山険路上。　羊街にむかいあう険しい山道にやってきた。

羊街対面的傍山険路喲！　羊街の向かいの山の険しいことよ！
狂風不断往後吹，　風はやむことなく吹きつけて，
狂風不住往後刮。　風はやむことなく吹きぬける。
狼狼的狂風喲！　狂ったように吹く風よ！
吹不倒情哥情妹。　このにいさんといもうとは吹き倒されない。
狼狼的狂風喲！　狂ったように吹く風よ！
指引了情哥情妹的去向。　このにいさんといもうとを導いてくれる。

狼狼的狂風喲！　　狂ったように吹く風よ！
刮不倒情哥情妹。　　このにいさんといもうとを薙ぎ倒したりしない。
狼狼的狂風喲！　　狂ったように吹く風よ！
真真領了情哥情妹的路。　　このにいさんといもうとを正しい路に導いてくれる。

好心的情哥喲問妹妹，　　こころやさしいにいさんがいもうとに尋ねるよ，
老人們説這裏有股好泉水，　　年寄りたちがここにきれいな泉があるといっていたけれど，
到底在哪裏啊，妹妹！　　いったいどこにあるのだろうか，いもうとよ！
情妹妹説：　　いとしいいもうとが答えます：
那股好泉水喲！　　それがその泉ですよ！
坎上岩縫裏流出来的就是。　　岩のくぼみから流れ出ているのがそうですよ。

這地点好遮陰，　　ここはちょうど日陰で，
這地点好乘涼　　ここはうまいぐあいに涼しい，
我俩哥妹在這裏歇歇，　　ここで一休みしよう，
順便喝点涼水。　　冷たい水をひとくち飲もう。

女：晴朗朗的天呀，　　晴れわたった空よ，
晴朗朗的天喲！　　晴れわたった空！
晴朗朗的天真真好，　　晴れわたった空はほんとうに素敵，
好我俩情哥情妹上路喲！　　私たちふたりには絶好の旅立ち日和り！

我俩情哥情妹向前走，　　私たちふたりは前へ進む，
我俩情哥情妹向前行。　　私たちふたりは前へ向かう。
走啊走，行啊行，　　さあ行きましょう，さあ進みましょう，
走到羊街対面的坡上。　　羊街にむかいあう険しい坂道にやってきました。

羊街対面的坡啊！　　羊街にむかいあう坂道よ！
砕石多得很，　　なんて石ころだらけな道，

情妹的光脚板喲！　　いもうとの裸足の脚よ！
砕石刺的辣呼呼。　　石が棘のようにつきささる。

好心的妹妹喲！　　こころやさしいいもうとは！
指着光脚板問哥哥：　　裸足の脚をゆびさしてにいさんに尋ねます：
老人們説，這裏有股好涼水。　　年寄りたちがいっていました，このあたりに冷たい水があると。
到底在哪裏喲？哥哥！　　いったいどこにあるのでしょう？にいさん！
情哥哥説：那股好泉水喲！　　いとしいにいさんが答えます:それがその冷たい水だよ!
坎下大樹脚的就是。　　大樹の根元から湧いているのがそれだよ。

這地点好歇涼，　　ここはきもちよく涼しいところ，
這地点好遮陰，　　ここはいいぐあいの日陰，
順便歇気吧！　　一休みしましょう！
我俩吃炒面。　　ふたりでチャオミエンを食べましょう。

合：我俩情哥情妹喲！　　私たちふたりは！
同是窮人家的児女，　　同じく貧しい家の子，
我俩互相了解了，　　ふたりは互いに分かりあえる，
我俩志向相投了，　　私たちの考えは同じ，
你不能丢棄我，　　あなたはわたしを捨てたりできない，
我不能舍棄你。　　わたしはあなたをないがしろにはできない。

走啊，逃啊！　　行きましょう，逃げましょう！
逃啊，走啊！　　逃げましょう，行きましょう！
朝太陽照的地方走啊！　　太陽が輝く方にむかって行きましょう！
朝太陽照的地方逃啊！　　太陽が照らす方をめざして逃げましょう！

到了理想的地方，　　理想の土地に着いたなら，
我俩来安家落戸。　　そこで家をかまえよう。

到了太陽照的地方，　　太陽が輝く場所に着いたなら，
我俩来成家立業。　　そこで暮らしを立てよう。

老父老母喲！　　年とった父さん母さんときたら！
悉個説悉個好。　　自分たちの思ったとおりにしようとする。
寨頭裏老喲！　　村の年寄りときたら！
夢想擯散我俩的愛情。　　私たちふたりの愛情をひき裂こうとする。

j 逃 婚 歌

陶自改唱　楊漢先捜集　韓紹綱翻訳
『民間文学資料第二十九集（滇黔，湘西苗族歌謡集）』
貴州省民間文学工作組編　1961年　pp.21-22

今年我們会暁得，　　今年になって私たちは知った，
暁得爹爹媽媽呵生得有，　　父さん母さんから生まれたら，
生得有兄妹児女両個，　　生まれたのが男と女なら，
姐姐生的是個男娃，　　姉さんが生むのは男の子でなければ，
弟弟養的是個女娃。　　弟が育てるのは女の子でなければ。

姐姐的女児呵生得美麗，　　姉さんの所の娘は生まれつき綺麗，
身体様児如同河辺的楊柳技技，　　身体つきは川辺の柳のよう，
苗条様子如像河岸的楊柳条条；　　身のこなしは川岸の柳が風に揺れるよう；
臉面細嫩又好看，　　顔は肌の肌目も滑らかに，
好像紅紅的桃花一朶，　　咲き誇る桃の花のよう，
又像鮮艶的茶花一枝。　　艶麗な椿の花のよう。

弟弟的児子呵生得俊俏，　　弟の所の息子は生まれつき凛々しい，
臉面肉皮薄薄像竹葉，　　顔は笹の葉のようにつやつやと，
肉皮臉面匀称像草葉。　　若草のように瑞々しい。

表姐愛慕着表弟，　　従姉は従弟を慕い，
表弟思念着表姐，　　従弟は従姉を想う，
表姐表弟相愛了，　　従姉と従弟は愛し合い，
姐弟両相約就把婚逃。　　二人は駈け落ちを約束しあう。

逃到杜那一莫河岸辺，　　一莫河のほとりまで逃げてきた，
逃到杜那一莫河那辺，　　一莫河の岸辺までにげてきた，
住在崩崩地方壩子上，　　崩崩のあたりの盆地に落ち着いた，
居在崩崩地方壩子上，　　崩崩のあたりの盆地に住み着いた。

姐姐弟弟呵，　　ねえさんとおとうとは，
安居在崩崩壩子上，　　崩崩盆地に住んで，
起得茅棚一間做家居，　　一間きりの粗末な家を建て，
起得円棚一間做家居。　　粗末な家を住みかにした。

姐姐勤紡織，　　ねえさんは糸を紡いで機を織り，
弟弟勤耕作，　　おとうとは野良仕事に精出した，
姐姐弟弟両呵，　　ねえさんとおとうと二人は，
就在崩崩壩子勤労耕織度生活，　　崩崩盆地で機織りと野良仕事に精出した，
就在崩崩壩子勤労耕織過日子。　　崩崩盆地で機織りと野良仕事をして暮らした。

姐姐麻布織的白又細，　　ねえさんの織る麻布は白くてしなやか，
還種有綿花，　　棉花も植えて，
還紡有綿綫，　　木綿の糸を紡ぎ，
還織有綿布。　　木綿の布も織る。

弟弟包穀種的多又好，　　おとうとの植えたトウモロコシは豊作だった，
還有洋芋，　　じゃがいもも植えた，
還有蕎麦，　　蕎麦も植えた，

還有小米，紅稗。	粟や稗も作った。
姐弟両有吃又有穿，	ねえさんとおとうとには食べるものがあり着るものがあった，
姐弟両有穿又有吃，	ねえさんとおとうとには着るものがあり食べるものがあった，
如像一対自由鳥児楽滋滋，	つがいの鳥のように滋しみあい，
如像一対鴛鴦永遠相依偎。	つがいの鴛鴦のようにいつまでも一緒に。
（歌至此完）	（ここで歌は終ります）

k　逃婚歌（貴州苗族民間長歌）

『民間文学』1960年第10期　pp.54-63

女：岩上的青藤，	岩の上のアオカズラは，
没有生根的地方。	根を生やす場所がない。
逃婚的我喲！	駈け落ちする私！
没有訴苦的地方。	苦しみを訴える場所もない。
岩窩裏的葡萄藤，	岩の窪みの葡萄の蔓は，
没有生枝長葉的地方。	葉を茂らせる場所がない。
逃婚的我喲！	駈け落ちする私！
没有訴苦的地方。	苦しみを訴える場所もない。
逃婚的我喲！	駈け落ちする私！
像没有繡上花辺的囲腰一様，	まるで刺繍のない帯のよう，
寨老們総是説我的壊話，	村の年寄り達は私に良くない事ばかり吹き込む，
如果我是没有繡上花辺的囲腰，	もし私が刺繍のない帯ならば，
伙伴們為什麼把我夸講？	仲間達はどうして私のことを良く言ってくれるだろうか？
逃婚的我喲！	駈け落ちする私！

像一粒掉落在山谷裏的紅米珠，　山の谷間に落ちた一粒の高粱，
爹娘一点不心痛；　父さん母さんは少しも気にかけてくれない；
逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
像一朶朶人看管的野花，　誰も目をとめることのない野の花，
兄弟們没有一絲同情心。　兄弟たちは一かけらの同情も寄せてくれない。

男：山河啊！　山よ！川よ！
雖然美麗，　美しい筈なのに，
総被烏雲遮蓋着；　黒い雲に遮られて見えない；
我的心啊！　私の心！
痛苦那様多，　こんなにも悩み多いのに，
没有人来安慰我。　誰も慰めてくれない。

逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
像那漂蕩的浮萍，　まるで水に漂う浮草，
只有漂流到各個地方；　漂ってどこかへ流れ着くだけ；
像一只無林帰宿的小鳥，　まるで帰る場所のない一羽の小鳥，
只有飛到那高高的山頂；　高い山の頂まで飛んでいくだけ；
逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
像没有糊神的傘架，　まるで紙の貼ってない唐傘，
寨老説我不是正経人。　村の年寄りは私を真当じゃないと言う。
如果我是天上的一顆流星，　もし私が空の流れ星なら，
伙伴們為什麼為我発愁？　仲間たちはどうして私を哀れんでくれよう？

逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
像那小小的山鶏，　まるで小さな雉，
満山遍野地哀鳴；　山中あまねく哀しく鳴き渡る；
像雨後湿秀了翅膀的小鳥，　まるで雨で翼の濡れた小鳥，
冷得直打哆嗦也没有人可憐。　寒さにうち震えていても誰も哀れんでくれない。

女：逃婚的我喲！　　駈け落ちする私！
　徘徊在九座高山上。　　九つの山を徘徊する。
　太陽啊！　　お天道様！
　照着三条大路。　　大通りを照らしている。
　我站在山頂上張望，　　私が山の天辺から眺めると，
　条条道路交錯着，　　幾筋もの道が行き交っている，
　哪条才是我逃走的路？　　どれが私の逃げる道なのだろう？

女：逃婚的我喲！　　駈け落ちする私！
　想来想去没主張，　　いくら考えても決まらない，
　朝着中間的大路走，　　まん中の道をとれば，
　怕遇見壊商人；　　悪い商人に遭うのじゃないかしら；
　走左辺的路吧，　　左の道をとれば，
　又怕官家的子弟欺悔。　　お上の手下に絡まれるのじゃないかしら。

　蜜蜂嗡嗡叫，　　蜜蜂がワンワンと飛んでいる，
　声音那様嘈雑。　　どうしてそんなに煩いのだろう。
　逃婚的我喲！　　駈け落ちする私！
　心緒乱如麻。　　心は千々に乱れる。

　小小的田鷄子啊！　　小さなハイタカよ！
　你不停地哀唱，　　お前はひっきりなしに哀しく鳴き続ける，
　使我的心啊！　　私の心は，
　痛楚得像刀攪一様。　　ナイフの切っ先で掻き回されたように痛む！

　逃啊！　　逃げましょう！
　像金魚逃出魚網，　　金魚が網から逃れるように，
　省得丈夫把我打傷。　　旦那が私をぶてないように。
　逃啊！　　逃げましょう！

像小鳥飛出籠子，　小鳥が籠から逃れるように，
免得公婆将我逼死。　姑が私を死に追いやれないように。

男：逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
拾頭望雲朶，　顔を上げて雲を見ると，
雲朶来回漂蕩。　雲は飄々と漂っている。
我的心啊！　私の心は，
漂蕩在海角天涯。　この世の果てまで流れていく！
我調頭環看大地，　頭をめぐらせて大地を見れば，
大地烟霧沈沈，　そこには霧が立ちこめている，
這様多的路啊！　なんて沢山の道！
哪条才是我逃走的路？　一体どれが私の逃げていく道なのだろう？

逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
仰頭望青天，　青い空を仰ぎ見れば，
青天藍靛靛。　空は蒼く蒼く澄み渡っている。
逃婚的我喲！　駈け落ちする私！
聴見山那辺的小鳥叫嘰嘰，　山の中で小鳥がさえずるのを聞く，
我扮成個生意人逃出家門。　商人になりすまして家から出よう。
小蜘蛛牽着綫児走，　ちいさな蜘蛛が糸を引いている，
我的心喲！　私の心は，
像交錯的河流，　合流する流れのように，
像乱麻難理清。　混じり合って澄むことがない！

告訴你喲！妹妹，　あなたに話そう！いもうとよ，
当我吃飯燙咀還好哭的時候，　私が腹が空いても泣くことしか知らなかった頃，
父母就忙着給接了親：　父さん母さんは早々と嫁取りをした：
当我拿上鞭子還不会赶牛的時候，　鞭を持って牛を追う事もまだできなかった頃，
寨老就催着替我完了婚。　村の年寄りは私の代わりに式を挙げてしまった。

我牽得牛来還不会架牛軛,	私が引いてきた牛にまだ首枷も嵌めることができなかった頃,
親戚帯我去接親説是引去做客；	親戚の者たちが私を連れて嫁迎えに行き客を呼んだ;
我放着羊群還不会跟羊走,	羊を放牧してもまだ羊について行けなかった頃,
舅舅們帯我去完婚説是引去赶花場。	おじたちが私を婚礼の席に連れて行き宴会を開いた。
小燕要離開老鷹的眼睛,	燕は鷹の目から逃れるために,
就要高高地飛；	高く高く飛ぶ;
我要逃出這討厭的家庭,	私はこの厭わしい家から逃れるために,
就得遠遠離去。	遠い遠い所へ行くんだ。
女：天空飛着朶朶黒雲,	空には黒雲が散っている,
我雖然逃去来了,	私は逃げて来たけれど,
丈夫家的礼銀還拴着我的衣裙；	旦那の家の結納金はまだ裾のあたりに纏わりついている;
我雖然逃去来了,	私は逃げて来たけれど,
丈夫家的羊群還拉着我的花辺。	旦那の家の羊の群が着物の端を引張っている。
男：你逃出来了,	あなたは逃げて来た,
就像金絲挣脱了篾圏。	金絲猴が囲いからぬけ出すように。
如果你有心愛我,	あなたが私を愛しているのなら,
丈夫家的礼銀割得断。	旦那の家の結納金なんかどうとでもなる。
你逃出来了,	あなたは逃げて来た,
像金魚脱離了魚網。	金魚が網から抜出すように。
如果你有心愛我！	あなたが私を愛しているのなら,
丈夫家的羊群我来賠償。	旦那の家の羊の群は私が弁償しよう！
女：唉！我的情哥哥喲！	ああ！私の愛するにいさん！
在早些時候,	昔は,
我像一朶花還没有開放,	私はまだ固い蕾でした,
爹娘見了人家的穀子晒満院就心裏慌。	父さん母さんはよその庭に干してある穀物を見て気がせいたのです。

在早些時候，　　昔は，
我像穀粒還没有壮漿，　　私はまだ実の入らない穀物でした，
爹娘見了人家的羊群心裏就想。　　父さん母さんはよその羊の群れを見て心に想うところがあったのです。

我的情哥哥喲！　　私の愛するにいさん！
当我還用衣袖去擦鼻涕的時候，　　私がまだ袖口で鼻をこすっていた頃，
爹娘就把我出嫁了；　　父さん母さんは私を嫁に出してしまいました；
我穿的衣裳自己還不会連花辺的時候，　　まだ自分で刺繍した着物も着れない頃，
寨老就把我送往来夫家的門上。　　村の年寄りたちは私を旦那の家に連れて行ったのです。

男：我的情妹妹喲！　　私の愛しいいもうとよ！
現在已経逃出了苦海，　　もう苦しみの海から逃れ出たんだよ，
走上了人間的路，　　人の道を歩いて行こう，
我俩手拉着手翻越重重的山嶺；　　私たちは手に手をとって重なる峰々を越えてきた；
如今逃到了重重的山坡上，　　山の頂まで逃げてきて，
我俩脚跟脚奔向遥遠的地方。　　二人の脚ははるか遠い所へと向かっている。

我的情妹妹喲！　　私の愛するいもうとよ！
不怕丈夫家的礼金，　　旦那んとこの結納金なんか気に病むんじゃない，
拴着你的衣裙，　　着物の裾に纏いついていたって，
它拴不住你我逃走的心；　　あなたと私の逃げようとする心にはかなわない；
不怕丈夫家的羊群，　　旦那んとこの羊のことなんか気にするんじゃない，
連着你的花辺，　　着物の端に取りついていたって，
它会被我俩割断。　　私たちの仲を裂くことはできないんだよ。

女：我的情哥哥喲！　　私の愛するにいさん！
我和你相遇在赶牛的路上，　　私とあなたは牛を追う道々知り合った，
我有心来又怕你無心；　　私は想いを寄せているけれどあなたにその気がないんじゃないかと心配；
我俩相遇在人家洗衣的河辺，　　私たちは河辺の洗濯場で出会った，

我愛你啊！	私はあなたを愛しています！
又怕你不愛我。	でもあなたは私を愛していないんじゃないかと心配。
如果我俩逃到了人間好的地方，	私たちが善人の住む所へ逃げ延びたら，
怕你的爹娘会失去那些牛站子；	あなたの父さん母さんが牛追いを失ってしまうのが気がかり；
我俩找到了人間好的大壩，	私たちが善人の住む盆地を見つけたら，
怕你爹娘会失去那些肥美的田庄。	あなたの父さん母さんが肥えた田畑を失ってしまうのが気がかり。
当我俩成家的時候，	私たち二人が夫婦になるとき，
別人穿起花衣配銀鐲，	他の人は晴着を着て銀の飾りをつけるけれど，
我没有這些花衣銀鐲啊！	私にはそんな晴着も飾りもない！
怕你以後説閑話；	あなたはもう口を利いてくれないんじゃないかと心配；
別人穿起綢衣掛金珠，	他の人が絹の着物を着て宝石を飾っていても，
我没有這些綢衣掛金珠啊！	私には絹の着物も宝石もありません！
怕你心上不喜歓。	あなたが内心つまらなく思っているんじゃないかと心配。
男：我的情妹妹啊！	私の愛しいいもうとよ！
只要我俩能够建立起美好生活，	私たちはただ望み通りの暮らしができれば充分，
我絶不可惜爹娘的那頭老黄牛；	私は決して父さん母さんの牛なんか惜しくない；
只要我俩找到了幸福的天地，	私たちはただ幸せに暮らせる土地を見つければそれで充分，
我絶不留恋父母的那些瘦土瘦田。	私は決して父さん母さんの痩せた田畑に未練なんかない。
只要不失我俩的愛情，	二人の愛情さえなくさなければ，
吃山芋野果心中也甜；	山芋や木の実を食べても心は満ち足りている；
只要不失去你和我的真心，	ただあなたと私の真心さえなくさなければ，
穿粗麻破衣心中也温暖。	粗末な麻の着物を着ていても心は暖かい。
在早些時候，	昔は，
父母会制不会配車筒，	父さん母さんはしきたりに逆らえなくて，
就為我定下了婚事；	私の婚礼を決めてしまった；

在早些時候，　昔は，
父母会制車筒不会配車皮，　父さん母さんはしきたりに逆らえなくて，
就為我找了個不相称的妻子。　私に不釣合な嫁さんを捜してきた。
我幼小的心霊，　私の幼い心は
通苦訴不完。　苦しみを訴えることもできなかった。

告訴你喲！妹妹！　あなたに話そう！いもうとよ！
別人穿着蜂臘劃的花衣，　他の人は臘結染めの着物を着ていても，
我身上却露出了肉皮。　私はボロボロの着物。
伙伴們掛着染金色的飄帯，　仲間たちは金に染めた帯を締めているのに，
我身上掛的是布筋筋。　私はただの布切れを巻いているだけ。

女：我的情哥哥啊！　私の愛しいにいさん！
你説得那麼真情，　あなたは本当の事を言っている，
像刀子割着我的心：　ナイフのように心に突き刺さる；
你訴得那様真実，　あなたは本当の事を話してくれた，
像刀子挿進我的心裏。　ナイフで私の心に切り込むように。
以前我的爹娘啊！　昔私の父さん母さんは，
只知道喝酒吃肉，　酒を飲んで肉を食うことしか知らなかった！
哪知道我的眼涙像水流；　私が河のような涙を流しているのを知ろうともしなかった；
以前我的父母啊！　昔私の父さん母さんは，
只曉得要金子銀子，　お金のことしか頭になかった！
哪曉得我的通苦悶在心頭。　私が心から悩んでいることなんか分かろうともしなかった。
不到花開的季節蜜蜂不会飛来，　花が咲かなければ蜜蜂は飛んで来ないのに，
我在年幼時媒人就等到家中，　私がまだほんの小さい頃に仲人が家の中までやって来た，
鳥児不拍翅膀不会生風，　鳥は羽ばたかなければ風は起きないけれど，
玩着泥巴的我喲却被哄出了大門。　泥んこ遊びをしていた私は門から放り出されてしまった。

我用根鉄杆試水水太深，　鉄の棒で水の深さを測ったら水はとても深いので，

知道婆婆是個大黒心；　姑が腹黒いことを知った；
我拿根白杆試水水是那様渾，　白い棒で水のきれいさを測ったら水はとても濁っていたので，
知道公公是個大悪棍。　舅が性悪なことを知った。

我背着桶水上不了石坎，　私は背負った水桶を石塀の上まで持ち上げられない，
丈夫見了恨在心裏面；　旦那は意地悪くそれを見ていた；
我抬甑子還没甑子高，　私が甑を持ち上げられないでいると，
丈夫対我一凶二悪。　旦那は悪態をつくばかり。

不管丈夫家的羊群満圏，　たとえ羊が囲いの中に満ちていても，
它迷不住我逃走的心；　私の逃げたいという心を押さえ付けることはできなかった；
那怕丈夫家的金銀堆満倉，　たとえ金銀が蔵に溢れていようと，
它買不了我給他家做吃做穿的心。　私の仕える心を買うことはできなかった。

牛不願架上牛軛，　牛は枷を嵌められることを願ったりはしない，
犁三鏵就要被撬脱；　三畝も耕せば犁を外したくなる；
馬不願配上馬鞍，　馬は鞍を置かれることを願ったりはしない，
騎三歩就要被踢翻。　三歩も歩けば振り落としたくなる。

没有柱頭的房子終久要倒，　柱のない家は倒れるしかない，
没有愛情的夫妻終久要分離；　愛情のない夫婦は別れるしかない；
没有基石的墻墩終久要塌，　基石のない塀は崩れるしかない，
不同心合意的人始終合不来。　心のかみ合わない人間はいつまでたっても平行線。

告訴你啊！哥哥，　あなたにお話ししましょう！にいさん，
妹妹只有逃出這火坑，　私はこの火の中から逃れたいだけ，
去尋找幸福的愛情，　幸福な愛情を求めて，
去建立美好的家園。　楽しい家庭をつくりましょう。

男：我的情妹妹啊！　　私の愛しいいもうとよ！
　你説得那様合我的心，　　あなたの話は私の心とまるで同じ，
　好像一塊布児繡上了花；　　布に花を刺繍したよう，
　你訴得那麼合我的意，　　あなたの訴えは私の考えとまるで同じ，
　好像白紙写上了文章。　　白い紙に書いた文章のよう。

　告訴你啊！妹妹！　　あなたに話そう！いもうとよ，
　雄鳥拍翅叫三声，　　雄鶏が羽ばたいて三声鳴いたら，
　我就上坡去犁地，　　坂をのぼって野良仕事にいく，
　太陽当頂了，　　お日様は真上から照りつけ，
　口渇得很啊！　　喉はからから！
　無人送来一滴水；　　でも一滴の水を運んでくれる人もいない；
　我又犁到月亮爬上東山，　　月が東の山の端に顔を出すまで働く，
　肚子餓得很啊！　　腹はペコペコ！
　無人送来一粒飯。　　でも一粒の御飯さえ運んでくれる人はいない。

　我辛苦九年在高山，　　私は九年つらい山の上で暮らし，
　想望着幸福的一天；　　幸せな一日を待ち望んでいた；
　我焦愁八年在河辺，　　私は八年鬱々と河辺で過ごし，
　想望着一個美好的家園。　　円満な家庭を夢見ていた。

女：往年的苦啊！　　長い間の苦労！
　像流不断的大江水，　　それはまるで大河の流れのよう，
　訴也訴不完；　　話しても話し切れない；
　従前流的涙啊！　　これまで流した涙！
　洒遍了田壩和山林。　　それは田畑や山を遍く濡らした。
　我在丈夫家，　　旦那の家では，
　吃三粒米還没進肚，　　三粒の米も飲込まないうちに，
　公婆罵着説：　　姑が罵る：

〝九籮玉米被你吃光了。〞　「箕九つ分のトウモロコシを皆食っちまった。」
吃三口飯還没下肚，　三口の御飯も食べないうちに，
丈夫跺着脚説：　旦那が脚を踏み鳴らして言う：
〝八倉穀子被你吃完了。〞　「蔵八つ分の粟を皆食っちまった。」

天空没有雲霧雷也会吼，　空に雷雲がなくても雷鳴が轟く，
我空着肚子做活也要挨罵；　私はすきっ腹を抱えて罵られながら働いた；
天空没有雲霧雨也会下，　空に雨雲がなくても雨が降る，
我餓着肚子做活還要挨打。　私は空きっ腹を抱えてぶたれながら働いた。
太陽落山還対籬笆笑一笑，　陽が落ちてまがきがシャラシャラと音立てる，
我把金山搬了来公婆還嫌少；　金山を運んできても姑はまだ足りないという；
月亮落山還対樹梢笑一笑，　月が落ち梢がシャラシャラと音立てる，
我把銀山搬了来丈夫也不会変好。　銀山を運んできても旦那の機嫌は直らない。

情哥哥啊！　愛しいにいさん！
我倆相好在這山卡卡，　私たちは好き合ってこの山の中にいる，
寛寛的大河怎麼渡過？　広い広い大河をどうして渡りましょうか？
我倆相愛在這幽幽的森林下，　私たちは愛し合ってこの深い森の中にいる，
重重大山阻碍我倆去成家。　幾重にも重なる山々が私達の結婚を阻んでいる。

男：情妹妹啊！　愛しいいもうとよ！
我倆受的苦，　私たちが受けた苦しみは，
像大河那様深，　大河のように深い，
讓我倆把苦来吐尽；　二人の苦しみを吐き尽くそう；
吐尽我倆的苦啊，　吐き尽くした苦しみが，
就是純真的愛情。　それが純粋な愛情だ。
前面是寛寛的大河，　目の前に広がる大河は，
大雁飛得過，　大雁なら飛び越えられる，
前面有重重的大山，　目の前の峨々たる山は，

大鷹能飛越。　　大鷹なら飛び越えられる。
我俩不像寨老那様悪心，　　私たちは村の年寄りのように意地悪じゃない，
漢族船夫会渡我俩過去；　　漢族の船頭さんが渡してくれる；
我俩不像舅舅那様黒心，　　私たちはおじさんのように腹黒くはない，
漢族船夫会渡我俩過去。　　漢族の船頭さんが渡してくれる。

我俩到了美好的地方，　　私たちが素敵な所に着いたなら，
河那辺的雷声也吼不到我們；　　あの河のほとりの雷はもう聞こえない；
我俩到了幸福的地方，　　私たちが幸福の地に着いたなら，
山背後的黒風也吹不到我們。　　山の後ろで吹く禍々しい風はもう吹かない。

你挖我犁把糧食蓄満倉，　　あなたが掘り起こして私が耕し食糧を蔵に満たそう，
不納給皇家一顆糧；　　お上になんて一粒だって納めるものか；
你挖我砍把庄嫁収満楼，　　あなたが掘って私が伐って家の中を収穫で満たそう，
不納給地主一粒租子。　　地主になんて一粒だって納めるものか。

我俩住的雖是茅草房，　　あばら屋に住んでいても，
吃的雖是菜飯米糠，　　菜飯と米糠を食べていても，
我們的愛情啊！　　私たちの愛情は，
像地久天長。　　地の如く天の如くいつまでも！

I　私奔歌（苗族情歌）

『民間文学』1982 年第 10 期　p.83

幾多の困難を乗り越えて，ついに一生涯の誓いを交わし，男が耕し女が機を織る生活に入り，二人の楽天地を作る。また一般に，自由恋愛の歌の掛け合いで夫婦になった者は，鳴り物入りの繁瑣な儀礼の手続きを踏む必要がないといわれる。私奔（駈け落ち）はこの簡単な方法の一つであり，そのため私奔歌がある。女から唱い出す：

初回離開了父母的懐抱，　　初めて父さん母さんの懐を離れて，
去過另一種陌生的生活，　　別な新しい暮らしを始める，
我禁不住一陣陣圏心猛跳。　　心が高鳴るのをおさえ切れない。

既然個個都要走這様的路，　　それぞれがこうした道を歩んでいくと言うけれど，
我也只好学着別人的様子，　　私はただ他の人から学ぶだけ，
心慌意乱顧不得臉紅害羞……　　心急いて気持ちは乱れ恥ずかしいなんてことは構っていられない……

只有月亮児伴我一起走，　　ただ月明りだけをお伴に歩く，
真叫我又覚孤単又憂愁，　　いやがうえにも孤独と不安をかき立てられる，
這路児是窄是寛不清楚……　　この道が広いのか狭いのかさえ分からない……

望郷，ためらい，不安の感情が言葉の端々に溢れていて，女性の優しさや細やかさが余すところなく表現されている☆。

☆：原文の前後にこのようなコメントが付されている。

m　逃婚歌

楊発芬（苗族）唱　潘任鼎（苗族）整理
『南風』1985年第1期　p.38

二月逃婚走出門，　　二月に駈け落ちをして家を出た，
想来想去主意真；　　気持ちに偽りはないと見極めて；
咬破指頭吃血酒，　　指を噛み破って血の酒をのみ，
有志逃去不変心。　　心変わりはしないと誓った。

四月逃婚過山梁，　　四月駈け落ちをして山を越えた，
山梁有人盤問郎；　　山の中である人が若者を問い詰めた；
不怕哪個来盤問，　　この問い詰めにひるむことなく，

説是干姐送干郎。　義兄弟の姉を送っていくのだと答えた。

八月逃婚翻大坡，　八月駈け落ちをして大きな丘を越えた，
幾道山坡幾条河；　丘には幾すじかの道と幾すじかの河；
想滅爹娘聴不見，　もう父さん母さんに見つかることもあるまいと，
放心不下眼涙落。　安心したら涙が落ちてきた。

九月逃婚路難行，　九月駈け落ちをして難渋した，
一路風吹雨又淋；　風が吹いて雨が降る；
郎衣妹裙全湿透，　二人して身体中ずぶ濡れになっても，
同甘共苦一条心。　苦も楽も心はひとつ。

十月逃婚過橋頭，　十月駈け落ちをして橋を渡った，
橋下水飄釣魚鉤；　橋の下には釣針が浮かんでいた；
願上鉤的定遭難，　針に掛かれば災難に遭うに違いない，
妹不上鉤才自由。　いもうとは針に掛からず逃げおおせた。

臘月逃婚回家郷，　年の瀬に駈け落ちをして故郷に帰った，
三親四友来商量；　親類知人と相談した；
姻縁不是爹娘配，　縁組は父さん母さんのすることじゃない，
全靠自主配成双。　すべては当の二人で決めるもの。